

## 令和2年度 青少年育成湯沢市民大会 佐々木（陽）さん 堂々発表！

☆ 11月19日（木）、雄勝中学校の体育館で、青少年育成湯沢市民大会（主催：青少年育成湯沢市民会議）が開催され、7名の中学生（全員3年生）が意見発表を行いました。本校からは佐々木（陽）さん（3年）が出席。発表題は「未来を描く創造者」です。

### 未来を描く創造者

「夢をさがす旅を続ける そんな時の彼方に光る未来がある」  
これは、学校祭で発表した合唱曲の一節です。僕たち3年生は、今まさに「夢をさがす旅」の途中にいます。

けれど、「光る未来」というものが分からない。自分が何を指しているのか分からない。何かをがむしゃらに頑張れば何かを得ることができるのだろうか。目標ははっきりしていなくても、頑張らなければいけないことだけはわかっている。

こんな自問自答を繰り返す日々を過ごしていました。

そんな時、外山滋比古さんの「思考の整理学」という本に出会いました。その中で、人間を「グライダー」と「飛行機」に例えた説明が印象に残っています。

動力がなく、自力で離陸できないグライダーをここでは、独力で知識を得ることができない人間に例えています。一方、「飛行機」は、自分でものごとを発見、発明することができる人間のことだそうです。

しかし、現在は情報化社会の渦の中。自分の意志に反して、様々な情報が入ってきてしまう。そうなると、「飛行機」になるのはこれまで以上にハードルが上がってしまう。では、どうするか。「『エンジンがついたグライダー』になればよいのだ」

つまり、今まで得た知識を駆使して新しいことを生み出せる人間になればよいのだと。

それでは、その「エンジンがついたグライダー」になるためにはどうすればよいのか。まずは、自分の考えを明確にもつこと。多方面からものごとを考え、より熟成させていくことが欠かせません。さらに、コミュニケーション能力もつけていかなければなりません。僕はもともと人と関わるのが苦手で、思うように人と話すことも、遊びを楽しむこともできませんでした。そのため、自ら行動範囲を狭くし、面白みにかける生活を送っていたように思います。

それが、中学生になって環境が変わると、その殻を破ることができたのです。それからというもの、様々なこれまで気付かなかった情報が入ってきて、自分の世界を広げることができるようになったのです。そして、相手の気持ちを押し量り、自分以外の人にも興味をもてるようになったのです。

これから、情報通信技術の発達により、社会が目まぐるしく変化していくと言われていています。だからこそ、これまで以上に人との関わりが重要になるのではないのでしょうか。そのために今から、コミュニケーション能力を磨くことを大切にしたいと考えています。

「夢は、趣味を生かした仕事に就くこと。宇宙旅行。誰かのために働くこと。……」

学校祭で披露した学年劇では、クラスメイトたちの様々な「夢」が語られました。すでにはっきりとした目標をもっている人。僕と同じくまだ漠然とした夢に留まっている人。人によって歩む速さは違います。しかし僕は、「光る未来」の創造のため、「エンジンがついたグライダー」となって飛び続けたいです。

